

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

美術・工芸・デザイン専門教育の一層の充実を図り、造形文化の発展に貢献する日本一の専門造形高等学校
1 造形活動を通じて、造形文化の発展に寄与する「確かな学力」「表現力・プロデュース力」「企画・発信力」の育成
2 美術・工芸・デザインの技能を生かし、将来、社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間の育成
3 美術・工芸・デザイン教育において、日本のセンター校として、造形教育の充実・振興に貢献し、「芸術・文化」の発展を牽引

2 中期的目標

1 造形活動を通して、「確かな学力」と「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成 (1) 造形活動を通して、造形文化、造形表現に必要な「確かな学力」、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成に取り組む。 ア 生徒全員が1人1台端末、ポートフォリオ、電子黒板、プロジェクタ等を効果的に活用できる環境と学習形態を整え、生徒の実態に即した授業の充実を図っていく。また、教育アプリ等を活用し、家庭学習を習慣化させるとともに、授業において「確かな学力」の向上を図る。 イ 造形教育における幅広い知識・実技力を身に付ける指導を充実させるとともに、少人数展開授業やICTを活用した授業の充実を図る。 ウ 造形教科、普通教科ともに、グループワークやプレゼンテーション、相互批評を行う活動を増やし、表現力や思考力を鍛え、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」を身に付けさせる。 エ 日本の作品や伝統工芸、世界の作品に触れる機会を通して、それらが育んできた造形文化への理解を深める。また、教員も指導力向上のために自己研鑽や研修参加に励み、魅力ある授業づくりに努める。 ※STEAM教育プログラムを踏まえ、実社会での問題発見・解決に活かしていくための教科横断的教育の実践に努める。関係機関と連携し、特にデザイン分野における課題解決型活動を実践し、「考える力」を育成する。 ※学教診において「授業内容に興味・関心をもつことができている。」の肯定的回答（R4 88%、R5 91% R6 89%）90%以上にする。 ※「発信力」の育成について、ICT機器を活用して、プレゼンテーションできる力を身に付け、造形表現力とともに言語表現力の向上を図る。生徒が自らの考えを発表し、お互いの考えを認め、尊重し合える場づくりをすべての授業（教科・科目）で設定する。学教診において「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある。」の肯定的回答（R4 91%、R5 98% R6 97%）90%以上を維持する。
2 社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間の育成 (1) 美術・工芸・デザインの技能を生かし、将来、社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間を育成する。 ア 美術造形との生涯に渡るかかわり方や大きな将来展望を考えさせるとともに、就労につながる志を育てるために、国内外で活躍する卒業生の講演、企業や芸術団体と連携した取組み、高一大・専連携講座等の一層の充実を図る。 イ 大阪市住之江区を中心とする地域連携を促進する。また、芸術を通して自らが社会に発信できるような企画力・発信力を養い、発表の喜びや社会貢献の大切さを体感させる。ボランティア活動等を通して、生徒に達成感を与えるとともに、生命を大切にする心や社会のルールを守る態度、人権意識を養い、社会の一員としての自覚に基づいた主体的な行動ができる人間を育てる。さらに、地域の防災拠点として、備蓄品の定期点検や合同防災訓練などを実施し、地域とともに防災教育を推進する。 ウ 将来を見据えた具体的な目標を立てさせ、生徒の個性や特性に応じた指導を組織的に行う。また、充実した高校生活が送れるよう教育相談体制の充実を図る。 エ 国公立大学(美術系)や難関私立美術大学進学を実現する指導体制を充実し、国公立大学進学希望者をはじめとする大学入学共通テスト受験者には、実技と学習がバランスよく取り組めるよう、補習・講習の整理と精選を行う。国公立大学5名程度を含む四年制大学進学者数100名程度を維持していく。 ※就労につながる志を育てるため、「ようこそ先輩」講演会を続ける。 ※進路指導の指標として、学教診において「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定的回答（R4 91%、R5 96% R6 96%）「進路実現に向けて、進学や就職など適切な指導が行われている。」の肯定的回答（R4 92%、R5 96% R6 96%）、いずれも90%以上を維持していく。 ※造形活動に意欲的に取り組ませるために、部活動への積極的な加入を促進し、複数部への加入による部活動加入率100%以上を維持していく。また「高校展」「芸文祭」等の展覧会への出品・入選、近畿・全国選抜展への出品数を維持していく。令和9年度においても現在の水準（美術の大阪府代表）を維持していく。学教診において「高校展や芸文祭などの制作活動を通じて、達成感が得られる。」の肯定的回答（R4 91%、R5 93% R6 94%）90%以上を維持する。 ※働き方改革の取組みとして、部活動指導や補習、学校説明会等による生徒・教員の負担を増やさないう、部活動の方針に基づき「定時退庁日」、「ノークラブデー」を確実に実施する。
3 美術・工芸・デザイン教育の日本のセンター校としての役割 (1) 府立学校の専門造形高校、日本一の専門造形高校として、全国の美術・工芸教育を牽引するセンター校としての役割を果たしていく。 ア 「全国美術高等学校協議会本部事務局校」として、本府だけでなく、全国の美術・工芸教育の中心的役割を担う学校をめざす。教育活動・発表や展覧会を拡充し、近畿・全国に向けて発信していく。 イ 学校外での生徒作品の展示、コンクールへの参加、報道媒体への情報提供、HPの充実等により日本一の専門造形高校にふさわしい積極的な情報の発信、作品の発表を行う。そのために必要な施設設備及び教材教具等のさらなる改善と充実を図る。 ウ 大阪の美術教育の振興に貢献するため、本校の教育資源（施設設備、教員、大学・美術工芸団体等との連携関係）を有効に活用し、他校種研究団体とも連携して教員対象の研修会等を企画するなど、センター校として推進に努める。 エ 国内外の造形作品にも触れる機会をつくとともに、国際理解教育の推進を図り、外国の学校との交流や海外研修の実施を推進する。 ※校内展示や美術館鑑賞により、常に優れた作品に触れる機会を設ける。特に、海外の美術作品等を扱う企画展や大塚国際美術館等、国内で海外作品が鑑賞できる機会を増やし、世界の文化について考える機会をつくっていく。また、ICTを活用し、海外の学校と文化交流を図るなど専門造形高校ならではの活動について推進する。学教診において「この学校には、他の学校にない特色がある。」の肯定的回答（R4 99%、R5 99% R6 100%）95%以上を維持する。また、「海外の美術作品を鑑賞したり、他の国との美術に関する交流したりする機会がある。」の肯定的回答（R4 61% R5 86% R6 88%）85%以上を維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
---------------------------	--------------

--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6 年度値]	自己評価
1 造形活動を通して、「確かな学力」と「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成	(1) 造形活動を通して、造形文化、造形表現に必要な「確かな学力」、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成 ア 生徒全員が1人1台端末、ポートフォリオ、電子黒板、プロジェクタ等を効果的に活用できる環境と学習形態の整備。教育アプリ等の活用。 イ 少人数展開授業やICTを活用した授業の充実 ウ 表現力や思考力を鍛え、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」を身に付けさせる。 エ 造形文化への理解・教員の自己研鑽	(1) ア すべての教科でICT機器を活用した授業を展開して授業への興味・関心を高め、生徒の理解度向上を図る。また、家庭学習を習慣化させるために学習アプリ等も活用して、学力の向上を図る。さらに、教員の授業力の向上を図るため、授業力向上委員会を立ち上げ、公開授業習慣の実施やICTに関する職員研修の充実を図る。 イ 造形活動に必要な幅広い知識・実技力を身に付けるため、実技指導の充実を図るとともに、少人数展開授業やICTを活用した授業を充実させる。そのため、学力・授業力向上委員会を立ち上げ、授業公開を促進し、教科の垣根を超えた授業実践研究の促進と教科横断的教育、課題解決型活動の実践を試みる。 ウ グループワークやプレゼンテーション、相互批評を行う活動を増やし、表現力や思考力を鍛え、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」を身に付けさせる。 エ 美術館等と連携し、現代の作品、世界の作品、伝統工芸作品に触れる機会を増やし、美術・文化への理解を深める。 また、教員の自己研鑽の機会を増やし、魅力ある授業づくりに努める。	(1) ア・学教診における「授業内容に興味・関心をもつことができる。」の肯定的回答 90%以上をめざす。 [89%] ・1年生で実施する外部テストの結果について、第1回に比べ第2回の到達ゾーンを下げないようにする。[国数英計] ・授業力向上委員会の開催。 [年2回以上] イ・学教診における「少人数の授業や、関心のある選択授業がある。」の肯定的回答 90%以上を維持する。[93%] ・「授業の内容や目的によってICT機器を効果的に活用している。」の肯定的回答90%以上を維持する。[93%] ウ・学教診における「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある。」の肯定的回答 90%以上を維持する。 [97%] ・日経STEAM デジタルアート展示発表会への参加 ・3年課題研究のプレゼン発表大会の実施 エ・国内外の作品に触れる機会の設定回数を昨年並みに維持する。[10 回] ・小中学校対象教員実技研修、PTA・後援会対象文化講座の実施(指導技術の向上)	
2 社会の各分野で活躍できる想像力とバイタリティをもった人間の育成	(1) 美術・工芸・デザインの技能を生かし、将来、社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間の育成 ア 卒業生の講演、企業や芸術団体と	(1) ア・美術造形との生涯に渡るかわり方や大きな将来展望を考えさせるとともに、就労につな	(1) ア・学教診における「将来の進路や生き方について	

府立港南造形高等学校

	連携した取組み、 高一大・専連携講 座等の一層の充 実	がる志を育てるために、国内外で活躍する卒業生の講演、企業や芸術団体と連携した取組み、高一大・専連携講座等の一層の充実を図る。 ・キャリア教育に関する講演会等を実施する。	考える機会がある。」の肯定的回答 90%以上を維持する。[96%] ・「地域(住之江区)や大学、芸術団体との連携の機会がある。」の肯定的回答 85%以上をめざす。[82%] ・すみのアートビートへの参加。 ・卒業生による講演会『ようこそ先輩』の実施。 ・大学等による出前授業の実施。 ・画材業者等による材料に関する講座の実施。	
	イ 地域連携の促進 と芸術の発信 人権感覚の醸成 防災教育の推進	イ・大阪市住之江区を中心とする地域連携を促進する。芸術を通して自らが社会に企画、発信できる力を養い、発表の喜びや社会貢献の大切さを体感させる。 ・ボランティア活動等を通して、生徒に達成感を与えるとともに、生命を大切にする心や社会のルールを守る態度、人権意識を養い、社会の一員としての自覚に基づいた主体的な行動ができる人間を育てる。 ・SNSの使い方について、生徒により深く学ぶ機会を設ける。 ・地域の防災拠点として、備蓄品の定期点検や合同防災訓練などを実施し、地域とともに防災教育を推進する。	イ・学教診における「部活動や生徒会活動が盛んである。」の肯定的回答 90%以上を維持する。[94%] ・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」の肯定的回答 90%以上を維持する。[94%] ・「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動すべきか指導されている。」の肯定的回答 90%以上を維持する。[94%]	
	ウ 高校生活をより 充実させるため の目標設定と支 援。教育相談体制 の充実	ウ 高校生活をより充実させるため、将来を見据えた具体的な目標を立てさせ、生徒の個性や特性に応じた指導を組織的に行う。また、充実した高校生活が送れるようきめ細かい相談ができるように教育相談体制の充実を図る。 ・充実した高校生活送るため、日常生活におけるルール（遅刻・欠席・社会規範等）について考える機会を設ける。	ウ・学教診における「進路実現に向けて、進学や就職など適切な指導が行われている。」の肯定的回答 90%以上を維持する。[96%] ・「担任の先生以外にも保健室やカウンセリング室等で、相談することができる先生がいる」の肯定的回答 80%以上を維持する。[84%]	
	エ 国公立大学・難 関私立大学進学 希望者を対象に した講習を計画 的・組織的に実施 「高校展」等の展 覧会への出品・入 選、近畿・全国選 拔展への出品数 を維持 働き方改革に関 する取組み	エ・国公立大学(美術系)や難関私立美術大学進学を実現する指導体制を充実し、国公立大学進学希望者をはじめとする大学入学共通テスト受験者には、実技と学習にバランスよく取り組めるよう、補習・講習の整理と精選を行う。 ・「高校展」や「芸文祭」等の高校生対象の公募展はもとより、大学・専門学校や企業など外部団体が主催するコンクールに積極的に出品・参加し、意欲・実技力の向上を図る。 ・部活動指導や補習、学校説明会等による生徒・教員の過度の負担を増やさないために、部活動の方針に基づき「定時退庁日」、「ノークラブデー」を確実に実施する。	エ・学教診における「高校展や芸文祭などの制作活動を通じて、達成感が得られる。」の肯定的回答 90%以上を維持する。[93%] ・「定時退庁日」を木曜日に「ノークラブデー」を木曜・日曜日に確実に実施する。 ・部活動顧問の複数配置。 ・行事の見直し。	
ター 校としての役割 3 美術・工芸・デザイン教育の日本のセン	(1) 府立学校の専門造形高校、日本一の専門造形高校として果たす役割 ア「全国美術高等学校協議会本部事務局校」として、全国の美術・工芸教育の中心的役割を果たす	(1) ア「全国美術高等学校協議会本部事務局校」として、専門美術高校の美術・工芸教育の中心的役割を果たしていく。教育活動・発表や展覧会を拡充し、近畿・全国に向けて発信していく。 大阪府全体の「高校展」「芸文祭」で中心的役割を果たすとともに、「港南展」をはじめとした独自行事、取組みのより一層の発展を図る。	(1) ア・学教診における「この学校には、他の学校にない特色がある。」肯定的回答 99%以上を維持する。[100%]	

府立港南造形高等学校

	イ 日本一の専門造形高校にふさわしい情報発信と施設設備の充実 ウ 美術教育の振興に貢献するため、本校の教育資源の有効活用と他校種研究団体との連携。センター校として推進 エ 造形作品に触れる機会の提供と国際交流	イ 学校外での生徒作品の展示、コンクールへの参加、報道媒体への情報提供、HPの充実等により日本一の専門造形高校にふさわしい積極的な情報の発信を行う。そのために必要な施設設備及び教材教具等のさらなる改善と充実を図る。 ウ 大阪の美術教育の振興に貢献するため、本校の教育資源の有効活用と他校種研究団体との連携。センター校として推進。 エ 国内外の造形作品にも触れる機会をつくるとともに、国際理解教育の推進を図り、外国の学校との交流や海外研修の実施を推進する。	イ・学教診における「学校の施設や設備については満足している。」の肯定的回答 90%以上を維持する。[90%] ウ・小中学校教員対象実技研修を実施する。 ・全国美術系大学短大合同説明会を府全体に呼びかけ、実施する。 ・港南展を大阪市立美術館で実施し、より多くの府民に鑑賞していただく。 エ・学教診における「海外の美術作品を鑑賞したり、他の国との美術に関する交流したりする機会がある。」の肯定的回答 85%以上を維持する。[88%] ・国際交流・海外研修を実施する。	
--	---	--	--	--